

教員採用試験始まる

今年の教員採用試験は、一次検査が7月3日に行われ、二次検査は8月5日から同月7日にかけて行われます。

教師を目指し、採用試験にチャレンジしようとしている皆さんは、いやが上にも緊張感が高まっていることと思います。

今年の採用試験からいくつか変更点がありますので、受験者の皆さんは十分気を付けていただきたいと思います。

まず、1点目は、一次検査は全てマークシート方式になったことです。その理由は、採点時間を少しでも節約し、それによって二次検査を充実させようとの配慮によるものと聞いています。

2点目は、授業について実践的指導力ある人材を確保するため、二次検査における個別面接検査に「模擬授業」を導入することとし、併せて、面接時間が10分間延長され45分となります。

3点目は、小学校の実技検査に当たって、学習指導要領の改訂に伴い英語のコミュニケーション能力等のある人材を確保するため、新たに「リスニング検査」が実施されます。

教員の採用試験は、これまでも人物評価を重視すると共に、実践力を問う形で行われてきましたが、それを更に一歩、二歩進めて、より実践力のある教員を確保しようというのが道教委の意図ですから、受験者の皆さんは、当然それに応えるだけの意気込みと力が必要になります。

実践力を身に付けると一口でいっても、それはなかなか難しいことです。なぜなら、子どもたちにモノを教えるということは一つの技術であり、その技術を磨くには、本人の努力だけではなく時間も必要だと思うからです。

また、教育実践の相手方である子ども達は、決して一通りではありません。コミュニケーションと一口に言っても、相手によって対応を工夫する必要があります。

ります。従って、教育実践に当たっては、柔軟性や懐の深さ、抽斗の多さ、表現力といったことが問われることになるのです。

このような実践力は、そう簡単に身に付くとは思えません。試行錯誤、実践の積み重ね、他者からの学びの中から身に付けるしかないものだと思います。

ですから、学生の皆さんには、実技演習や教育実習といった限られた機会を決して無駄にしないことです。また、子ども達と関わるようなボランティア活動などにも積極的に参加してみるべきでしょう。

また、大学においては、初等、中等教育の実際を十分把握した上で、理論だけではなく、より実際に近い形で実践体験を積むことができるよう、授業内容を工夫していただきたいと思います。

頭で分かっていることと、実際にやれることとの間には、天と地ほどの差があるのですから・・・。(塾頭 吉田 洋一)